

～かなみっ子のすこやかな成長、質の高い乳幼児教育と保育を目指して～



つながる



函南町幼児教育センターだより第8号

令和7年2月発行

連絡先 幼児教育センター(学校教育課内)
電話 979-8121

幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために

架け橋期の教育の実施に向けて、本年度、接続研究推進会議を設置し、3回開催しました。会議で作成する架け橋期のカリキュラムは、0歳児から18歳までの学びの連続性に配慮し、架け橋期(5歳から小学校1年生)に焦点化して教育の充実を図るものです。

第1回、第2回の会議では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校、中学校につながることを委員で共通理解し、それを踏まえて「中学校修了時の期待する子ども像」を検討しました。

また、架け橋期のカリキュラムの考えを園・小中学校の先生方に理解を深めていくために、園長会、校長会、教頭会、主幹・教務主任会で概要についてお話をさせていただきました。

I 12月2日 接続研究推進会議(第3回)

会議では、①「中学校修了時の期待する子ども像」を中心に、②架け橋期のカリキュラムで「目指す姿」の3つの視点、③小学校1年生の4月から5月のゆるやかなカリキュラムのネーミングの3項目を議題としました。

①「中学校修了時の期待する子ども像」について

前回の会議で、ABグループで検討した「中学校修了時の期待する子ども像」の案を検討・統合するを行いました。

第2回会議での案

- Aグループ案 「夢に向かい挑戦し、人・物・社会とつながる子」 キーワード”しなやかに”
Bグループ案 「思いや考えを表現する・夢に向かって挑戦する・社会と関わる」

第3回会議での案

「思いや考えを表現する 夢に向かって挑戦する 人・もの・社会と関わる」

この案を学校教育課内で検討し、検討委員に再考していただき、以下のようになりました。

決定案

「思いや考えを表現する 夢に向かって挑戦する 人・もの・こととつながる」

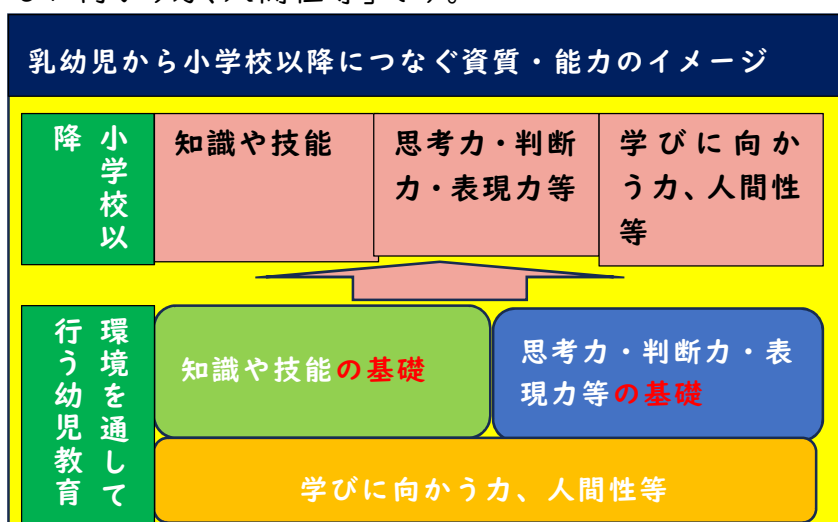
② 架け橋期のカリキュラムで「目指す姿」

架け橋期のカリキュラムの表には、架け橋期に焦点をあてた3つの「目指す姿」の視点を記します。保育所保育指針、幼稚園指導要領、幼保連携型認定こども園・保育要領、小学校学習指

導要領等に示されている資質・能力の 3 つの柱にあたります。「知識や技能(の基礎)」、「思考力・判断力・表現力等(の基礎)」、「学びに向かう力、人間性等」です。

乳幼児教育では、遊びを通しての総合的な指導により 3 つの柱の土台(基礎)を育成しています。これが小学校以降に引き継がれるようにする取組が大切です。

架け橋期には、園校が意識的に協働して子どもの発達や学びをつなぎ、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要となります。また、架け橋期の円滑な接続をより一層意



識し、乳幼児期の子どもそれぞれの特性や発達段階を踏まえ、一人一人の特性や 0 歳から 18 歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育内容や指導方法を工夫することが重要です。こうしたことを踏まえ、3 つの柱の言葉を次のようにしました。

「生活する力」「思いを表現する力」「学びに向かう力」

③ 小学校 1 年生の 4 月から 5 月のゆるやかなカリキュラムの時間割

幼児教育施設と小学校教育の場との違いは、たくさんありますが、その中でも大きな差の一つは時間の区切りです。小学校の 1 コマは 45 分間ですが、幼児教育施設では、本日の主活動に入る前に自由遊びの時間を設定しています。

さらに、自由遊びから発展させた内容が主活動につながることも多く、子どもたちの会話や活動がはずみます。

幼児は、自分自身の生活の様々なことが自分でできるようになることを家庭や幼児教育施設で日々体験しながら身に付けていきます。幼児は、3 年から長い子は 5 年間と小集団で過ごし、多くの言葉かけや体験を通して成長し、仲間や周囲の大人とも人間関係を深めていきます。その間に培った基礎的な力は、個人差があるものの確実性が増し、自信となっていきます。その自己肯定感、自己有用感、集団が少し大きくなった小学校でも活かしていくために、「なかよしタイム」の導入が必要であり、特に 4 月当初は大切な時間です。

「なかよしタイム」では、例えばゲームや遊びをしながら友達の名前を覚え、自分のことを教えるために、似顔絵を描いて、名刺を作ったりする活動を通して、自分が所属する学級を意識し、仲良しの友達と 1 日過ごす、快適な場所になっていきます。また、小学校で見聞きする学習教材に興味や関心が広がり、生活や遊びで体験したことを思い出しつつ、新しい出来事や学びに向かう気持ちが生活科を中心とする「のびのびタイム」で育っていきます。

4 月当初は、教科という内容別のテキストをどう使うのかよく分からない子どもたちですが、「なかよしタイム」で仲間が増え、「のびのびタイム」で遊びから発展した学びを経験することで、<もっと知りたい。><もっとやってみよう。><できるようになりたい。>などの気持ちが生まれてくる、「ぐんぐんタイム」という時間の確保が大切になるわけです。

特に入学式直後は、授業時間を柔軟にとらえ、15 分間の「なかよしタイム」を設定し、「のびのびタイム」に移行するなど、工夫が必要です。

5 歳児の保育では、子どもが主体的に考えて活動する場を設定するなど、環境構成の工夫と遊びながら学びに向かう、子どもの意欲を高めていくようにしていくといいです。

なかよし タイム	一人ひとりが安心感を持ち、担任や友達に慣れ、新しい人間関係を築いていく時間です。自分の居場所を学級の中に見出し、徐々に集団の一員としての所属意識をもち、学校生活の基盤である学級で、安心して自己発揮できるように工夫していきます。
のびのび タイム	幼児期に身に付けた力を発揮し、主体的な学びをつくっていく時間です。生活科を中心として、様々な教科等と合科・関連を図り、教科学習に円滑に移行していくための時間として位置付けています。幼児期における「遊びを通した総合的な学び」を生かし、子どもの思いや願いに沿った学習や、具体的な活動や体験をきっかけにして各教科等につなげる学習を大切にすることで、主体的に学ぶ意欲を高めます。
ぐんぐん タイム	「なかよしタイム」「のびのびタイム」、日常の生活の中で子どもが示した興味や関心をきっかけに、教科等の学習へ徐々に移行し、教科等特有の学び方や見方・考え方を身に付けていく時間です。

※横浜市教育委員会作成を参考にし、3つのタイムのネーミングは、教育委員会発行の幼児教育リーフレット、パンフレットの名前から採用しました。



A グループ



B グループ

2 12月10日町教頭会研修会

教頭会に希望する保育者も出席して、東海大学幼児教育学科准教授 寶來生志子氏の講演テーマ「みんなで伴走し、育てよう！函南町の子どもたち～架け橋期の教育を考える～」（オンライン）の視聴後、意見交換を行いました。研修会のアンケートに「接続について当事者としてできること」の質問に以下のような回答がありました（一部掲載、原文のまま）。



- ・小学校の先生たちに保育現場を実際に見ていただけるよう投げかけていきながら、情報交換をさらに密にできるようにしていきたいです。また、同じ小学校に入学する他園の子ども同士も関わりが持てるよう、交流の場を計画していきたいと思います。
- ・保幼小の先生方の「子どもの気づき・手応え感覚を大切にする」「次に行動する意欲を持たせる」という考えややり方を伝えながら、共通すべきことを確認し、中学校として学びに対する子どもの意欲や好奇心をどう高めていくか研修を進めていきたい。
- ・子どもの思いやつぶやきを拾いながら、教育活動に生かす視点は、小学校に限らず中学校でも必要です。本校の職員にもそうした視点と「子どもに任せる勇気」や「子どもに任せられる大枠を教員がもつこと」を伝えていきたいと思います。
- ・校長の意識を確認する。1校だけで取り組む話ではないので、校長会で令和7年度のスタートを各小学校で取り組むべきだと思うと進言する。
- ・子どもたちがスムーズに小学校生活を送れるように、学びに向かう力の基盤を保育園でも身につけていけるよう、いろいろな体験をさせていきたいと思いました。グループの先生方と話して、今までは幼保は受け身が多いような印象でしたが、小学校に行ってこんなことしてみたいと提案することも架け橋期の子ども達の不安を少しでも取り除いていけることにつながるので、交流会以外でも小学校に行ける場を計画していきたいです。

- ・全く同じことはできませんが、子供の主体性や好奇心を生かした学校生活になるよう先生方に架け橋期の大切さをお伝えし、全校でその時期を支えられる体制を整えるよう声掛けや研修を推進していきたいです。
- ・園でも子どもの主体性を大切にしたい保育についてもう一度しっかり見直し、円滑な接続ができるよう、年長の担任だけでなく、全職員が意識をもてるようにしたいと感じた。

会場参加者、オンライン視聴者から寄せられた意見には、職員の意識改革、子ども主体の教育、円滑な接続、架け橋期の職員への周知、共有、交流、つながるなどの言葉がありました。子どもに関わるすべての人々が意図的に協働で子どもの発達や学びをつないでいくことの大切さが記されていました。

3 1月16日主幹・教務主任研修会

令和7年度の保育・教育課程の編成に向けて、園校の担当が参加しました。研修会の全体会で、円滑な接続に向けた取組を進めるために今後の方向の話をしました。資料は、「函南町のカリキュラム作成ガイド」を基に説明をしました。



内容は、A これまでの取組のこと、B 架け橋期の教育の充実を図るため、接続研究推進会議のこと、C 函南町保幼小中連携・接続構想(案)のこと、D 登校しぶりのことです。

特に、小学校入学の4月から5月の週の学習計画は、前記のCで示した「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」のことです。小学校で園での生活を踏まえつつ学びに向かう気持ちを高めていく取り組むための提案です。

研修会では週案(資料)に「なかよしタイム=♡」「のびのびタイム=☼」「ぐんぐんタイム=□」の記号を記入しました。早い時期から国語、算数などの時間、「ぐんぐんタイム」が多く位置付けられていることに気付きました。子どもが園で育まれた「・・・したい」が減ってしまう時間割です。

参加者には、4月、5月の時間割は、「なかよしタイム=♡」「のびのびタイム=☼」「ぐんぐんタイム=□」を意識した週案の作成をお願いしました。

4 令和7年度に向けて小学校へのお願い

架け橋期の取組として、小学校に以下の4点をお願いしました。

- ① 今年度2月・3月に、主幹・教務主任と1年部の先生方で、4月・5月の1年生の週案を見て「なかよしタイム」「のびのびタイム」「ぐんぐんタイム」の占める割合を振り返り、3つのタイムの割合を出してみる。
- ② 4月から5月にかけて、初めのうちは「なかよしタイム」の割合を大きくとり、幼児教育的な環境設定で遊びの要素を取り入れていく。だんだん「ぐんぐんタイム」の割合を増やしていき、教科等の学習へ円滑に接続していく。
- ③ 入学式で校長先生からのお話の中で、「1年生は4月・5月ゆったりとした活動」を進めていくことについて、家庭への理解をお願いする。
- ④ 年度初めの学年だよりに掲載する。

また、3月26日(水)の保幼小中連絡会では、新1年生の子どもの姿と1年生担任の関わりに係る動画を参加者に視聴していただきます。前述の①②の取組のヒントになるものです。